

付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ情報

平成27年12月22日～平成28年1月4日に陸奥湾3定点で付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ調査を行ったので、その結果をお知らせします。

1 ラーバの出現数

ユウレイボヤラーバの出現数の推移は図1、表1のとおりで、久栗坂沖で1/4に1.7個/トンで、他の2地点では見られませんでした。

オベリア類(通称クサ)のクラゲの出現数の推移は図2、表1のとおりで、久栗坂沖で1/4に2.8個/トン、川内沖で1/4に2.3個/トンで、蟹田沖では見られませんでした。

キヌマトイガイラーバの出現数は図3、表1のとおりで、久栗坂沖で1/4に14.4個/トン、川内沖で1/4に43.8個/トンで、蟹田沖では見られませんでした。

ネンエキボヤラーバは見られませんでした。

マボヤラーバは、久栗坂沖で1/4に2.8個/トン見られており、天然採苗の参考として、今回も表1に追加しています。

表1 ラーバ等の出現状況

単位:個/トン

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	オベリア類	キヌマトイガイ	マボヤ
蟹田沖	H27.12.22	0.0	0.0	0.0	0.0
久栗坂沖	H28.1.4	1.7	2.8	14.4	2.8
川内沖	H28.1.4	0.0	2.3	43.8	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 水温の状況

各ブイの1月7日の平均水温は、表2のとおりです。

表2 各ブイの中層における日平均水温(1/7)

観測地点	水温(°C)	観測地点	水温(°C)
平館ブイ	11.0	東湾ブイ	7.1
奥内ブイ	8.7	浜奥内ブイ	5.7
青森ブイ	8.8		

※奥内、浜奥内は10m層、他は15m層

3 今後の見込み

ユウレイボヤのラーバの出現数は減少傾向にあり、平成25～26年度に比べて西湾では少なめ、東湾では同じくらい多い地点も見られます。付着したラーバが成長してきているので、今後の作業にあたっては注意が必要です。

ネンエキボヤは、10～11月にラーバが付着して出来たコロニー(群体)が無性生殖(「株分かれ」のように増える)で増加しているものと思われます。

また、オベリア(クサ)のクラゲは、数は少ないものの出現が続いており、付着はまだ見られていません。春先に被害を及ぼす大型のオベリアは、今後付着していくものと考えられます。

キヌマトイガイ(コメガキ)の大型ラーバ(300ミクロン以上)が平成25～26年度より半月～1ヶ月位早めに出現してきており、今後増加していくものと思われます。

今後のラーバ等の出現動向については、次回(1月下旬発行予定)の情報を参考にしてください。

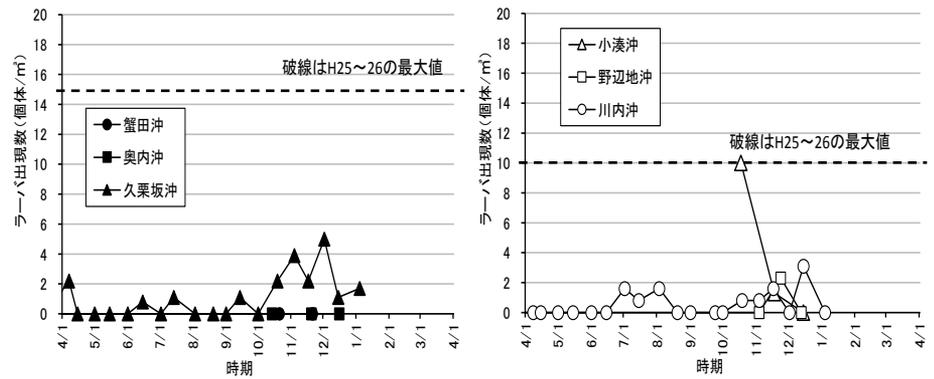


図1 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(4～9月は久栗坂・川内のみ)

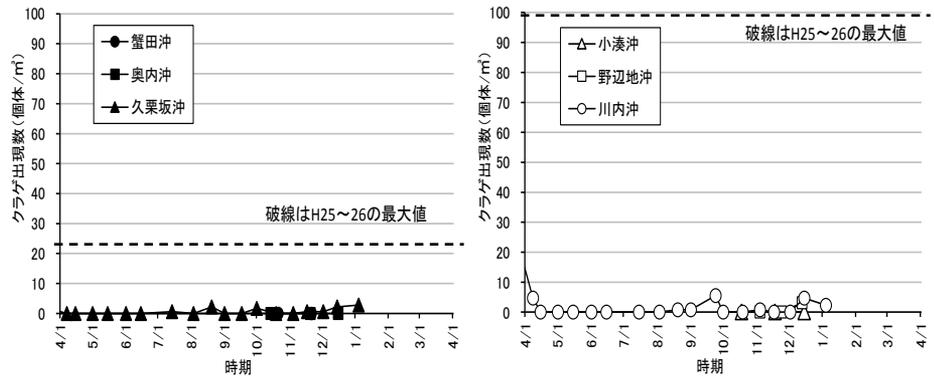


図2 オベリア類のクラゲ出現数の推移(4～9月は久栗坂・川内のみ)

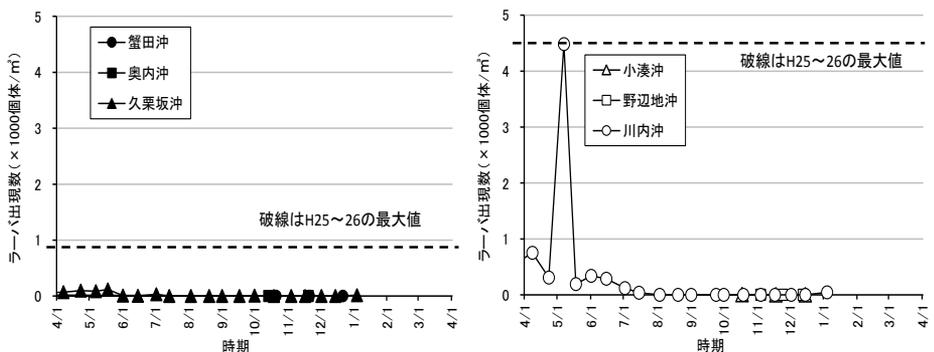


図3 キヌマトイガイのラーバ出現数の推移(4～9月は久栗坂・川内のみ)

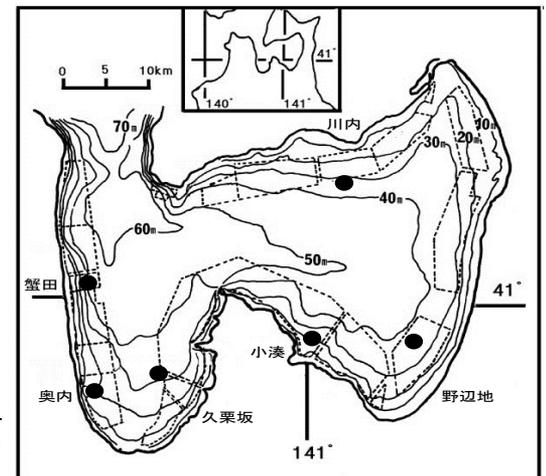


図4 ラーバ調査地点

発行元: 地方独立行政法人

青森県産業技術センター 水産総合研究所

住所: 青森県東津軽郡平内町大字茂浦字月泊10

TEL: 017-755-2155 FAX: 017-755-2156

水産総合研究所ホームページURL: <http://www.aomori-itc.or.jp/index.php?id=2184>

id=2184

ホタテガイ採苗速報 携帯電話用QRコード(①)

海ナビ@あおもり 全モバイル端末共用QRコード(②)

